

MBTI を用いたメンバ間のリスク特定

プロジェクトマネジメントコース 矢吹研究室 1442085 中村真悟

1. 研究の背景

プロジェクトマネジメントにおいて、メンバとは必ず顔見知りになるということはない。なので、今マネジメントしているプロジェクトメンバはどのような人なのか、すぐわかるわけではない。ではどのようにしたら改善できるのだろうか。

一つはチームメンバを固定してしまうことである。当然そうすることができれば苦労はしないだろうが、プロジェクトの定義上困難な話である。では、プロジェクトマネージャがより早くメンバのことを人間の特徴を把握することができればどうか。

ユングの類型論を発展させた MBTI というものがある。人の考え方を

- 内向：I・外交：E
- 感覚：S・直感：N
- 思考：T・感情：F
- 判断的態度：J・知覚的態度：P

の 4 指標の組み合わせで 16 タイプに分類するものである。この技法はキャリアカウンセリングやリーダーシップ開発、チームビルディングなどに使われることが多い。

この MBTI を用いて、プロジェクトのメンバの大きな性格を理解し、メンバの相互作用が原因となって起きる事象の予測を行うことはできないのだろうかと考える。以上のことから本研究では MBTI を用いて、プロジェクトを円滑に遂行する方法を研究する。

2. 研究の目的

本研究の目的は、チームメンバの MBTI のタイプの相互作用がプロジェクトにどのような影響をもたらしているのかを調べ、チームメンバの編成によるメンバ間のリスクを特定できるようにすることである。

3. プロジェクトマネジメントの関連

本研究では、PMBOK におけるリスク・マネジメントに関連する。MBTI は自己理解メソッドであり自己成長を促すため、人的資源マネジメントに関連づく。また、MBTI はチームビルディングに用いることができ、さらにはメンバ間の円滑なコミュニケーション向上が期待できるため、コミュニケーションマネジメントに関連しているといえる。

4. 研究方法

以下の手順で研究を進める。

- ソフトウェアコースの PM 実験を受講する学生に対し、MBTI の性格検査を行い、メンバのタイプを調査
- メンバのタイプを 1 指標が 1 タイプに偏る、もしくは 4 指標すべてが正反対となるようにチームを編成
- そのチームに対し、アンケートを行い実際にどのような事象が起きたか調査
- MBTI のタイプとチームに起こった事象とでどのような関連があるのかを考察

参考文献

- [1] 正夫坂内, 一郎 (通信・ネットワーク工学) 佐藤, 知之古谷, 和男矢野, 雅夫桑原, 武今井, 修功上田, 直人松本, 亮二森. ビッグデータを開拓せよ: 解析が生む新しい価値. 角川インターネット講座, No. 07. KADOKAWA, 2015.
- [2] 友佳杉浦. 1-5 レスキュー・マネージメントのためのストラテジック・チーム・ビルディング論. プロジェクトマネジメント学会研究発表大会予稿集, Vol. 2001, pp. 20–25, mar 2001.
- [3] 啓太板倉. ルーブリック評価を利用した pbl における学習到達度の測定. mar 2015.
- [4] 梢北村. Csi による人格分類がグループディスカッションへ及ぼす影響. 平成 27 年度プロジェクトマネジメント学科卒業論文概要集, Vol. 2015, pp. 11–12, mar 2015.